

# 山大病院だより

2012年

新年号



## 特集 2011年の山大病院を振り返って



### 新年のご挨拶

#### 「新年を迎えて」

山口大学医学部附属病院 病院長  
岡 正朗



皆様、明けましておめでとうございます。

今年は辰年であり、本院も龍に倣い、様々な方面で飛翔できるよう、ご協力をお願いいたします。

昨年3月に起きた東日本大震災では、防災の重要性を痛感し、地域における大学病院の役割を改めて認識した次第です。被災地の日も早い復興をお祈りいたします。

昨年の医学部附属病院では、4月に山口県から総合周産期母子医療センターに指定され、MFICUの稼働も始まり、周産期医療を今までよりさらに充実させることができました。

検査機器については、各科において必要な高額機器の更新を行い、中でも世界最高水準のMRI装置を導入し、より高度な検査が可能となっています。

また、10月にはキャリア支援の為に卒後臨床研修センターを改組し、クリニカルスキルアップセンターを併設した「医療人育成センター」を設置いたしました。センターには研修医・専門医支援部

門、地域医療支援部門、男女共同参画支援部門、コメディカル育成支援部門の4部門を置き、各方面に適切な支援が実施できる体制を整えております。

併せて、地域医療教育研修センターが今年の2月下旬に完成予定であり、このセンターを中心としてさらなる地域医療の発展と医師確保に繋げていきたいと考えております。

皆さんと共に作り上げる新病棟建設を含めた病院機能向上プロジェクトについては、概算要求に向けて現在本部と打ち合わせしております。コンセプトは「地域から世界へ、高度医療の推進と医療人育成～進歩と信頼の調和～」とし、戦略性のある安定した病院経営を基盤に、社会変化に対応した先進医療の開発と人材育成に取り組み、地域住民に安心・安全な高度医療を提供することで、国民及び職員に共感を得た持続性のある病院として発展することをグランドデザインとしました。診療・教育・研究のバージョンアップはもちろん、国際化への取り組みや、環境や災害対応も念頭に計画を進めております。

プロジェクトの推進には、安定した病院経営が必須です。皆様のご協力をもちまして、昨年も順調な病院経営ですが、更なる向上を目指すために、今後ともご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、本年が皆様にとって、また附属病院にとって素晴らしい年、希望溢れる年になることを心より祈念しております。



# ドクターヘリ 2011年の活動を振り返って

2011年1月からスタートした救急医療専門のヘリコプター「ドクターヘリ」。その1年間の活動と今後の課題についてご報告します。



7月23日に、本学医学部第3講義室で、「第1回山口県ドクターヘリ事例報告会」を開催し、県内の消防機関や救急指定病院などから、合わせて約140人が出席しました。

## ● 報告会の主な内容

- ・日本医科大学千葉北総病院救命救急センター・松本尚准教授による、「ドクターヘリ事業成功のポイントと最近の話題」と題した特別講演
- ・本院・笠岡准教授から、ヘリ運航に至るまでの経緯および東日本大震災被災地支援活動を含むこれまでの出動実績を報告
- ・事例発表として、これまでのドクターヘリの出動ケースを消防署と医師、それぞれの立場から評価や反省点が紹介され、参加者との活発な質疑応答が交わされた。
- ・医学部附属病院オリジナルのドクターヘリPR用DVDを上映

今回の報告会では、参加者は改めてドクターヘリの必要性を認識し、また医師と消防、それぞれの立場の理解を深めるとができる有意義なものとなりました。

## ●ドクターヘリ運航スタートからの主な動き(11月30日現在)

1月	21日	運航開始 ドクターヘリ運航開始式開催
	25日	初の出動要請(長門市消防本部からの要請)
		出動件数 2件
2月	出動件数 15件	
3月	12日	東日本大震災でDMAT出動(~15日)
	出動件数 4件	
4月	出動件数 19件	
5月	出動件数 11件	
6月	2日	離島訓練(下関市蓋井島)
	出動件数 17件	
7月	11日	離島訓練(下関市六連島)
	23日	第1回山口県ドクターヘリ事例報告会
		出動件数 14件
8月	26日	離島訓練(萩市相島)
	出動件数 14件	
9月	1日	山口宇部空港消防救難訓練
	8日	100回目の出動要請(萩市消防本部からの要請)
		出動件数 22件
10月	24日	離島訓練(防府市野島)
	出動件数 13件	
11月	12日	医学祭でのドクターヘリ一般公開(~13日)
	出動件数 15件	

\*見学については、随時対応

2011  
7月

## 第1回山口県ドクターヘリ事例報告会を実施しました

鶴田：山口県内、大学病院内の連携がより一層強化され、県内病院との顔の見える連携も築くことができました。また、陸上搬送で

ヘリ就航は、どんな効果をもたらしたか？

鶴田：まずは1月21日、ヘリポート上で二井関成知事をはじめ、多くのご来賓の方々をお迎えして行われた運行開始式です。次に3月12日、東日本大震災翌日にフライトドクターの笠岡先生、フライトナーズの山中さんが被災地・福島県立医大へ向かったことです。彼らは石巻市立病院の入院患者を安全な場所に搬送させるミッションを遂行しました。そして現場出動において、フライトドクターの田中先生とフライトナーズの松木菌さんが、外傷による両側血・気胸患者さんに救急車内で適切な処置を施すという経験もし、ヘリの素晴らしさを実感したことです。

活動を振り返って印象的だったことは？

鶴田：2年目を迎える今年は、ヘリの活用による救命救急医療の実績が問われ始めます。救命医療や救急ナーズの職務にフライトドクター・ナーズが加わったことで、我々の働くバリエーションが1つ増えたと考えられるでしょう。ひとたび出動すると、限られた環境の中で正確な判断と高度なスキルが求められます。そのためにも今後も航空医療学会等の研修会への積極的な参加や、学外からの研修や見学の受入れなど、後継者の育成を図っていききたいと思っています。

今年のドクターヘリの展望・課題は？

は長時間かかる美祿、萩、長門消防と本院の距離が縮まりました。さらに学内でもヘリポートから初療室へ向かう途中で緊急CTを撮影したり、他科の先生方が初療室でスタンバイしたり、NICUの先生と一緒にヘリに乗り込んだり、大きな効果を実感しています。

【インタビュー】  
ドクターヘリの活動実績と今後の課題について

「大きな効果をもたらしたドクターヘリの運用は、2年目の今年が勝負です」

先進救急医療センター長  
鶴田 良介

## 2011. 3. 11 東日本大震災における本院の医療支援活動

被災地の一日も早い復旧・復興をお祈りいたします。

震災発生後、被災地に対して本院からはドクヘリ・DMATの派遣や物資の支援の外、多くの医師・看護師・技師等を医療支援スタッフとして派遣しました。中でも精神科神経科では院内の協力を得て、県立こころの医療センターと連携し、5月から7月までの間に、医師・看護師・事務職員延べ20名を岩手県釜石市に派遣して、「こころのケア」活動を行いました。

被災地への医療支援は、全国的に今年の3月まで継続して行われることとなっており、本院も引き続き、医師や看護師を派遣しています。

2011年3月11日14時46分、未曾有の大災害である東日本大震災が発生。翌12日早朝に山口県ドクターヘリに対して災害派遣医療チーム(DMAT)事務局から出動要請があり、医師1人、看護師1人が被災地に向かいました。13日午前中に参集拠点である福島県立医大に到着。宮城県石巻市を中心に被災者の救護・搬送活動に従事。患者や家族、医療スタッフなど合わせて20数人の搬送を行い、無事に帰還しました。

また、いわて花巻空港においても本院のDMATが医療支援活動を行いました。

今回の活動は本院DMATにとって大変貴重な経験となり、今後の災害医療活動に活かしたいという意思を強くするものとなりました。



いわて花巻空港で医療支援活動を行うDMAT



ドクターヘリより被災地撮影





## 検査精度の高い、最新MRI装置を導入

2011  
4月



4月から、MRI装置3台のうち2台が更新され、ドイツ・シーメンス社製の最新式の1.5テスラと3テスラMRI装置が稼働しています。3テスラの最新式装置は、現在、臨床で用いられている装置の中では最も磁場強度が強く、体の中から出てくる信号が強いため効果的な画像化が可能です。そのため従来よりも精度の高い検査ができるようになりました。またMRI検査で患者さんは円筒状のトンネルに30〜40分入りますが、今回導入のもののは開口径が70センチと広く開放的で、検査時の騒音も低減していることで、患者さんの不安感を和らげ、快適に検査を受けていただけます。

## 本院が「総合周産期母子医療センター」に指定 母子に高度な医療を提供する

2011  
4月

4月に、県総合医療センターに続いて山口県で2番目の「総合周産期母子医療センター」として指定を受けました。現在本院は、NICU12床、GCU8床、MFICU6床で運営中であり、産科医と新生児医療を専門とする小児科医、看護師・助産師だけでなく、眼科・小児外科・脳神経外科など幅広い専門医によるチームを組み、24時間体制で、県内全域から母体、新生児を受け入れています。また遠隔地からはドクターヘリを利用した搬送も行い、地域の周産期母子医療に貢献しています。

## 正面ロータリーの進入道路を、片側2車線に拡幅

2011  
4月



慢性的な渋滞を解消、接触事故防止にも一役

柳ヶ瀬丸内線から正面ロータリーへの進入道路を、片側2車線に拡幅。これにより慢性的な渋滞が解消され、接触事故もなくなり利便性が大きく向上しました。本院には外来患者、見舞い客など1日当たり1870台の車が出入りし、以前は特に午前中は駐車場待ちの列ができて進入までに1時間近くかかることもありましたが、今回の整備により、渋滞の苦情は皆無となり、スムーズな流れができました。

## 本学と協和発酵キリン(株)との共同研究の成果が オンライン版として、欧州の高血圧専門誌に掲載

2011  
5月

山口大学代表 医学系研究科 器官病態内科学 教授 崎益徳(と、協和発酵キリン株式会社との共同研究、COPE Trial)の研究結果が、高血圧専門誌「Journal of Hypertension」にオンライン掲載されました。詳しくは医学部附属病院臨床試験支援センターのホームページをご覧ください。

臨床試験支援センター  
COPE Trial専用ホームページ  
<http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~cope/>

2011  
6月

## 「院外処方」に切り替え

本院では、従来から原則として院外処方としていましたが、6月より外来患者さんには、院内ではなく院外の保険薬局(かかりつけ薬局)での薬を受け取る「院外処方」を徹底しました。治験等、特別な事情がある患者さんは除く。



なお、1階玄関ホールにある「FAX受付」コーナーでは、保険薬局の照会の他にも、「院外処方せん」のFAXサービスも行っており、これにより患者さんの薬の待ち時間を短縮することができます。

2011  
9月

## 医学系研究科・坂井田功教授らのプロジェクトが「再生医療の実現化プロジェクト再生医療の実現化ハイウェイ」に採択



9月28日、文部科学省は、国家基幹研究開発事業「再生医療の実現化プロジェクト再生医療の実現化ハイウェイ」の採択事業を発表し、短期で臨床研究

への到達を目指す再生医療研究課題に、医学系研究科・坂井田功教授らが申請したプロジェクト「培養ヒト骨髄細胞を用いた低侵襲肝臓再生療法の開発」が採択されました。

詳細情報はこちら  
<http://www.yamaguchi-u.ac.jp:80/page.php/index/page/id/1744>

2011  
10月

## 『山口大学医学部附属病院医療人育成センター』を設立



10月1日に、研修医・専門医支援部門、地域医療支援部門、男女共同参画支援部門、コミュニティカル育成支援部門の4部門からなる「医療人育成センター」を設立し10月12日には岡病院長ほか関係職員が参加して看板掲式を行いました。

このセンターは、医師、看護師等の養成機関としての責務に加えて、本院に勤務する全てのコミュニティスタッフ(事務職員含む)に対して医療人としての育成支援を行うことにより、全医療人のキャリア形成に寄与することを目的とした施設です。

また、今春に完成する「地域医療教育研修センター」を臨床研修の拠点施設としてご期待ください。(詳しくは裏表紙をご覧ください。)

医療人育成センター  
<http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/section/76.html>

2011  
10月

## 献血運動推進協力団体に対する「厚生労働大臣感謝状」の受賞

10月27日、平成23年度献血運動推進協力者表彰式が山口県庁で行われ、山口大学医学部附属病院を代表し、武藤副病院長に厚生労働大臣からの感謝状が授与されました。

本院は、昭和48年からの永年にわたり献血に協力しており、その功績が認められ、献血運動の推進に寄与し、特に優秀で他の模範となる団体として、感謝状が贈呈されました。







2011年のまだだった人事や、表彰関係の情報をお知らせします。

# 山大医学部附属病院長に、岡正朗教授が再選



岡正朗 教授  
Masaaki Oka

2011年4月、本院の病院長に、岡正朗教授が再選されました。

この度病院長に再選いたしました岡です。病院職員の皆様には、常日頃から病院運営にご協力いただき感謝申し上げます。

さて、本院は高度医療技術を提供し、医療人育成を行う山口県唯一の特定機能病院です。

従って、常に最新の医学知識・技術を開発・提供するとともに、最新の設備整備が求められております。

2011年1月からは、ドクターヘリの運航開始、3月には最新のMRIの導入、4月からは山口県指定の「総合周産期母子医療センター」の稼働、10月には全医療人のキャリア形成に寄与する「医療人育成センター」の設立など、特定機能病院としてまた、地域医療の中核として果たすべき使命を遂行しているところです。

今後も本院は患者さん中心で透明性の高い安全・安心な医療を提供するために努力していきますので、病院職員の皆様のご協力並びにご理解をお願い申し上げます。

【おか・まさあき】  
防府市出身。61歳。1976年山口大医学部卒業。1996年同教授。2006年同附属病院腫瘍センター長。2007年健康やまぐち21がん対策分科会会長。2010年9月から同病院長。専門は消化器・腫瘍外科学。日本消化器外科学会指導医・専門医

## Report

# 2011年 イベント・レポート

2011年に山大病院で 開催されたイベントを 紹介します。



## 2011 5月 「オーロラ写真展」



(写真右から)大塚さん、岡医学部附属病院長、妻の有里さん、花田看護部長

5月に外来棟1階及び2階ロビーにおいて、カナダのイェローナイフで、車でオーロラを追いかけける”をテーマに活動されているオーロラガイドであり写真家でもある大塚佳文さんのオーロラ写真展を開催しました。

今回の写真展の開催は、本院の医師と交流のある大塚さんのご厚意により実現したものです。

空から降り注ぐようなオーロラや、空二面に雄大に広がるオーロラなど、様々な姿を見せるオーロラの写真が多数展示され、神秘的な写真の数々に、患者さんや来院された皆さまが足を止めて鑑賞していました。

オーロラガイド大塚さんのHP <http://www.aurora-guide.com>

## 2011 5月 「看護の日」記念行事

ナイチンゲールの誕生日にちなんで5月12日の「看護の日」に外来棟1階および2階ロビーにおいて、「看護の日」記念行事を開催しました。

岡病院長から花田看護部長への花束贈呈や、患者さんや来院された方々への「看護の日」記念グッズを配布したほか、例年好評の健診コーナーや健康・医療福祉・栄養相談コーナーなどが設けられ、多くの方々の相談がありました。また、各部署の取り組みを紹介したパネルや写真、看護師が日常業務の中で感じたことの川柳、ドクターヘリの写真などを展示しました。毎年恒例のパネル審査では、外来棟チームが最優秀賞を受賞しました。

今回も「看護の日」に医療・看護への理解が深まり、「看護の心をみんなの心」と、気軽に看護にふれていただける楽しい行事となりました。



## 2011 11月 バレーボール大会 優勝『The☆術場!』(手術部)

11月26日に教職員レクリエーション行事としてバレーボール大会を開催しました。全18チーム・185人という大勢の参加を得て熱戦の末、栄えある優勝を手にしたのは、「The☆術場!」(手術部)で、そして準優勝は「ギネ(1-4西)でした。

次回開催も優勝をめざし、多くのチームの参加をお願いします。なお、大会運営に際し、ご協力いただきましたことを心から感謝申し上げます。



## 2011 9月 「日本フィルハーモニー交響楽団 弦楽四重奏コンサート」

9月18日、外来棟1階ロビーにおいて、「日本フィルハーモニー交響楽団 弦楽四重奏コンサート」を開催しました。

クラシックをはじめ唱歌や童謡など12曲が演奏され、このうち「海」、「赤とんぼ」など4曲を演奏に合わせてみんなで合唱し、美しいハーモニーがロビーに響き渡りました。入院患者さん一般市民の方など約350人が、弦楽器の美しい音色や、間近で生の音楽に触れ、時間の経つのも忘れ聴き入りました。

演奏終了後は、4人の団員と本学医工学部管弦楽団の学生との交流会も開催されました。



# 森重直行講師が「日本眼科学会学術奨励賞」を受賞

医学系研究科眼科学分野の森重直行講師が、「Detection of subepithelial fibrosis associated with corneal stromal edema by second harmonic generation im-

aging microscopy)に対して日本眼科学会学術奨励賞を受賞され、昨年5月に東京国際フォーラム(東京都)で開催された第115回日本眼科学会総会において、表彰状と研究助成金が授与されました。また、同学会において、受賞テーマによる受賞記念講演も行われました。

日本眼科学会学術奨励賞は、眼科学の進歩発展を図り、優れた若手研究者を助成・育成する目的で設置され、毎年1回、日本眼科学会会員の中で特に優秀な若手研究者5名に授与されるものです。

受賞となった研究は、第2次

## 平成23年度 病院優良従業員表彰を受賞

西山美智恵 副看護部長、有富早苗 副栄養治療部長

西山美智恵副看護部長及び有富早苗副栄養治療部長が、社団法人山口県病院協会から、県内の病院に従事する勤務成績の優秀な者を表彰する「病院優良従業員」を受賞され、6月20日、病院長室において伝達式が行われました。

岡病院長から表彰状及び記念品が手渡され、永年の功労に対する敬意並びに今後のさらなる活躍を期待する旨の祝辞が述べられました。

また、谷澤栄養治療部長、花田看護部長、寺本事務部長も同席し受賞を祝しました。

## 2011 12月 ♪子ども達の笑顔いっぱい「クリスマスの夕べ」♪

クリスマス間近の12月20日、外来棟1階ロビーにおいて恒例の「クリスマスの夕べ」を開催しました。

開演に先立ち、外来棟1階ロビーに集まっていた入院患者さんなどへ、サンタに扮した岡病院長や検査部、放射線部、薬剤部のコメディカルスタッフから、クリスマスプレゼントが配られました。

岡病院長の挨拶で開演し、オープニングでは、本院内保育所「たんぼ保育園」のさくら組(年長園児)による「アンパンマンのサンサン体操」の歌とダンスが披露され、とってもかわいらしい園児達に暖かい喝采が起りました。

引き続き行われた、のぞみ財団による「アンパンマンショー」正義の味方、かいつナカネギマン参上!」では、入院中の子ども達や保育園児達は、前席の方でかぶりつくりように見入っており、約200人の観客がとっても楽しい時間を過ごしました。

ショー終了後にはアンパンマンと記念撮影が行われ、子ども達は大喜びでした。





# 2012年1月～3月の主な予定

## ● スケジュール

平成24年1月～3月開催予定の研修会等をお知らせします。  
多数ご参加いただきますよう、よろしくお願いいたします。

### ◆第7回感染対策研修会(第6回医療安全講習会と共催) 「抗菌薬適正使用」

日 時	平成24年1月24日(火) 17:30～18:15
会 場	医学部第3講義室
対 象 者	全職員

### ◆第8回感染対策研修会「SSI」

日 時	平成24年2月7日(火) 17:30～18:15
会 場	医学部第3講義室
対 象 者	全職員

### ◆第9回感染対策研修会「摂食嚥下と口腔ケア」

日 時	平成24年3月15日(木) 17:30～18:15
会 場	医学部第3講義室
対 象 者	全職員

2012

2月

## 『地域医療教育研修センター』が完成予定



県内の臨床研修医の拠点となる施設「地域医療教育研修センター」が本学部体育館裏駐車場内(宇部市東小串1丁目)に完成します。

当センターの整備事業は、山口大学および県内臨床研修病院の臨床研修医に対して、安心・安全な施設を提供するとともに、山口県等関係機関および本学医学部・地域医療推進学講座が連携した交流・研修等を通じて、地域医療マインドを持った優れた医療人の育成・支援を行うことを目的としています。

また臨床研修医の確保・定着を図ることも目的としており、県内の臨床研修医ネットワークの形成を推進することで、多くの臨床研修医の定着が期待されています。

## お知らせ(TV放送)

## Announcement

### ● 「医進！前進！～山口大学医学部研究室探訪～」

**放送日** 毎週水・土・日曜日 11:45～12:00、23:15～23:30

**放送局** 山口ケーブルTV



本学医学部・附属病院における世界に誇る最先端医療や医療事情等を“わかりやすく”地域の視聴者へ発信し、難病を患っている方や健康に不安を持っている方へ光明を与えるとともに、身近で最先端医療に取り組んでいる山口大学医学部及び附属病院を紹介しています。

## 編集後記

### ● 編集担当(総務課・総務係：H.N・M.A)

今回初めての季刊誌ということで準備を進めてきましたが、病院は出来事も行事も多く、どれをピックアップするか迷いました…  
今年度に入り震災等諸事情によりしばらくの間休刊しておりましたが、今回の特集号から復活します!  
次号からもどうぞお楽しみに!!  
職員の皆さんに役に立つような情報もどんどん掲載していきたいと思っておりますので、ご愛読くださいますよう、お願いします♪



### 編集部よりお知らせ

皆さんからのご意見・ご感想をお待ちしております。  
取材してほしいこと、興味のあること、面白い趣味があるスタッフなど、情報をお待ちしております。

**FAX** 0836-22-2113

**E-mail** me202@yamaguchi-u.ac.jp